

済生会みすみ病院が 担う役割について

令和6年2月 済生会みすみ病院

1 現状と課題（現状）

【自施設の現状と課題】

理念：医療・福祉を通じて安心して生活できる地域創りに貢献します

基本方針：
1.救急医療を実践します
2.地域医療を支援します
3.健康的な生活を支援します

病床内訳

一般病床	27床	（急性期一般入院料6）
地域包括ケア病床	53床	（地域包括ケア入院医療管理料1）
回復期リハビリ病棟	40床	（回復期リハビリテーション病棟入院料1）

	2016年	2023年
一般病棟	60→43床	43→27床
地域包括ケア病床	40→45床	45→53床
回復期リハビリ病棟	40→40床	40→40床
計(医療法許可数)	140→128床	128→120床

※前回報告

1 現状と課題（現状）

【自施設の現状と課題】

診療実績

	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023.4-12月)
入院患者数	37,377人	38,758人	31,130人	22,807人
病床利用率 (COVID受入病床除く)	87.1%	88.8%	84.7%	82.6%
病床利用率 (全体)	80.0%	83.0%	76.3%	
救急車搬入数	718台	733台	632台	582台
救急患者数	3,272人	2,543人	3,637人	2,921人

128床運用
(うちコロナ専用病床12床)



9月から
100床運用(20床休床)
(うちコロナ専用病床12床)



5/8から
(コロナ専用病床なし)

1 現状と課題（現状）

【自施設の現状と課題】

職員数

合計：245人（2023年12月時点） ※業務委託・派遣30人含まず

（内訳）医師9人（外科2・循環器内科2・消化器内科2・整形外科1・脳外科1・腎臓内科1）

看護師86人、准看護師1人、看護助手25人、

薬剤師7人、臨床検査技師9人、診療放射線技師6人、管理栄養士4人

理学療法士20人、作業療法士20人、言語聴覚士5人、

介護福祉士2人、医療ソーシャルワーカー3人、ケアマネージャー3人、

事務員（医療秘書含む）29人、病棟クレーク3人、

技能員4人、清掃員6人、調理師1人、調理補助2人

1 現状と課題（現状）

【自施設の現状と課題】

政策医療（5疾病5事業における当院の役割）

5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）

精神疾患をのぞく4疾病の診断、一部の治療・処置を実施し、必要に応じ熊本市内の急性期病院へと転送

5事業（救急医療、災害時医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）

救急告示病院（救急医療圏は天草）であり入院患者の半数は救急経由。

周産期及び小児の対応は不可であり、災害時医療、へき地医療については特別な指定は受けていないが、地域にひとつしかない病院であるため、災害時の対応は言うまでもなく、へき地医療についても上天草市湯島診療所の連携支援を行うと共に協力型臨床研修指定病院の地域医療プログラムにて研修医の離島診療体験を行っている。

在宅医療については、医師による訪問診療、訪問リハビリを実施。2023年10月に訪問看護ステーションを開設。

1 現状と課題（課題）

【自施設の現状と課題】

- ・ 昨年9月から夜勤可能な看護師不足により、一部休床し、128→120床で運用。また、コロナ病床確保料補助金が5月になくなったこと、地域の人口減少による患者数減、物価高、エネルギー価格高騰などが重なり、2023年度以降の経営悪化が大きな課題。
- ・ 人手不足、職員確保に苦慮。特に今不足している職種が、医師、看護師、看護助手、売店スタッフ。現在常勤医師は9名、平均年齢は63歳であり、救急対応、入院患者受入れが十分に機能していない。今後病院の中心となる医師、看護師の確保はこの地域においてより厳しくなることが予想されるため、地域で確保・育成するなどの視点を変えた取り組みが必要であると考えます。

1 現状と課題（課題）

【自施設の現状と課題】

- 三角町、大矢野町、松島町には整形外科医は当院1人のみしかいない。この地域には高齢者が多く整形外科疾患のニーズがあるため、少なくとももう1名は必要。
- 建物老朽化の問題。途中改修・増築は行っているが、築40年が経過。将来資金不足が否めない中、全面建替の選択肢は病院を将来にわたり存続させることを考慮すると厳しい。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

理念：「医療・福祉を通じて安心して生活できる地域創りに貢献する」

	現在	今後のあるべき姿（案）
基本方針	◎地域医療の支援 ◎救急医療の実践 ◎健康的な生活の支援	◎地域医療の支援 ◎在宅・介護の支援 ◎健康的なまちづくりの支援 ◎信頼される人づくりの育成
病棟	一般27床・地域包括ケア53床・ 回復期40床 計120床 ※2023年4月に許可病床数を128→120床に	・当面は120床を維持 ・将来地域包括ケア、回復期を増やす方向 ・将来介護医療院を検討 ・新興感染症の感染拡大の場合は、状況に応じた医療体制を構築する
外来	専門外来＋一部総合外来	・専門外来を一部残しつつ総合外来にシフトしていく ・オンライン診療
救急	原則断らない救急	・トリアージ中心の救急 ・熊本病院との遠隔コンサルト
手術	外科、整形を中心に105件/年(2022年度)	・縮小の方向
介護	通所リハビリ、訪問リハビリ	・通所リハビリを拡大 ・訪問看護ステーションを新設(2023年10月)
予防医療 他	健診センター、出前健康講座	現状に加え ・筋力アップ教室の拡大 ・ローソン移動店舗車とのタイアップ事業

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期			
急性期	43	40 (一般27、地ケア13)	40
回復期	85	80 (回復40、地ケア40)	80
慢性期			
その他			
合計	128	120	120

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2】

- 2017年度に比べ、病床利用率が逡減しているため、許可病床数を8床減らし2023年度より120床とした。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (2023年12月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、外科、脳神経内科、脳神経外科、整形外科、循環器内科、消化器内科、泌尿器科、腎臓内科、心臓血管外科、糖尿病内科、呼吸器内科、麻酔科、リハビリテーション科	内科、外科、脳神経内科、脳神経外科、整形外科、循環器内科、消化器内科、泌尿器科、腎臓内科、心臓血管外科、糖尿病内科、呼吸器内科、麻酔科、リハビリテーション科	医師次第で診療科の増減もあり得る。 済生会熊本病院からの派遣外来診療については、オンライン診療も検討していく。
新設	なし	総合診療科を検討	今後地域に必要な総合診療へシフトしていく方向。
廃止	なし	なし	
変更・統合	なし	なし	

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2023年4-12月)	2025年
①病床稼働率	82.6%	90%以上
②紹介率	36.1%	50%以上
③逆紹介率	69.6%	70%以上

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

- 地域連携を強化し、特に回復期病棟の病床利用率アップに努める。
- 看護師を始めとする医療従事者確保の取組みとして、通常の募集と平行して、済生会熊本病院との施設間異動も合わせて推進していきたい。
- 次年度から開始する医師の時間外労働の上限規制の対応として、出来る限りの多職種へのタスクシフトを推進したい。